

8/18 ヴェネチアへ

朝 4 時の列車に乗って水の都ヴェネチアへ。サンタルチア駅に到着して駅を出ると、朝日に照らされてキラキラと光る水、行き交う船、味のある建物を一度に目にしました。開いた口がふさがらないとはこのことです。ディズニーシーの中に普通に人々の生活があるような・・・私の文章力でこの景色を伝えるのは難しいです。大きな橋を渡って、路地に入ると迷う。迷う。それも、行きつく先が水。ちょっとおもしろいです。

ヴェネチアといえば、ゴンドラ！



アコーディオンを使って演奏、歌いながらのゴンドラもあって、とっても楽しそうです。見てみると、たった一本の長い棒を使って、ほかのゴンドラとスレスレのところを上手に進んでいくのです。涼しげなボーダーのTシャツもかっこいいです。そして、何度も行き止まりになっては引き返してを繰り返している内にサン・マルコ広場につきました。



サン・マルコ寺院は一部が改装中、大行列だったのであきらめて、ドゥカーレ宮殿に。ヴェネチア共和国時代に総督の居館と行政庁、裁判所が置かれていた場所で、今は多くの絵画も展示されています。入口で大きな荷物は預けるように言われたのが分かるくらい、広い宮殿でした。正直私は美術に疎く、どの絵画を見ても「へえ～すご～い」と思ってしまう残念な奴なので、その先にあった牢獄の方がとても印象的でした。牢獄に行くには小さな橋、ため息橋を渡ります。後

から調べてみると、有罪となった罪人が牢獄へ向かう時、橋から見える最後の外の風景を見てため息をつく。ということからその名がつけられたそうです。この橋は今まで何人のため息を聞いてきたのでしょうか。豪華な宮殿から一転。牢獄は石造りで、夏でも少しひんやりしていて、小さな小さな窓から光がこぼれるだけの、暗く、気分が沈む場所でした。罪人が書いたであろう落書きも残されていました。何が書かれていたのだろう・・・知りたいような知りたくないような。牢獄に入る機会なんてきつとないだろうし、罪人達はここで何を考えていたのかと様々なことに思いを馳せました。

路地に入ると、可愛い光景が。お気に入りの写真です。洗濯物さえも街に溶け込んで風景になってしまうんですね。

海沿いを端まで行くと、森林が見えてきました。大勢いた観光客が減って近所のおじいちゃんたちが集まる安らぎの場所でした。ひたすら歩いて棒のようになった足を休めることができました。